

医療崩壊は政治の責任

いのちと暮らしを政治の中心に

首相への手紙

「コロナ禍で私が経験したこと」

大阪民医連職員「ケアの担い手」編

選挙しよう!
Vol.2

Go vote!
Let's act!



看護師

長期で入院されている患者さんが、家族に会えないことで涙されていたり、外出や外泊ができないことで、お葬式に出れないことに悲しまれている姿をみて、とても辛いと思いました。

首相へ一言

日々忙しい中で、周りのスタッフが目に見えてモチベーションが下がり、ストレスを溜めている様子があるので、医療者を後押ししてくれるような政策を考えてほしいです。現場を見てください。

看護師

コロナ患者を病院が受け入れることになり、病床を空けるために対象でない患者を看ないといけないことが増え、**介護度も医療度も上がり人手不足でストレスもたまる**。しかし緊急事態が解除されても私たちの日常は友人とも会えず、隔離状態が続き、**「看護師の自覚を!」と重圧をかけてくる**。でも(もし)今私がこの病院をやめてしまったら?…そんな責任感だけで働いています。

首相へ一言

いつまでがまんしたらいいですか?コロナ対応している人だけが大変なんじゃない!病院にも手厚い保障をしてくれないと、私たちの働きに応じたものさえ手に入られない。

事務職員

まだ生まれて間もない乳児をつれて訪れた失業中のシングルマザー、仕送りがとだえてアルバイトもままならず体重が10キロ以上減ってがりがりに痩せた学生、医療費の保険一部負担金が払えないために基礎疾患の治療を中断している中高齢の失職者、病気だけでなく、誰ともつながっていない生活困窮者と出会いました。「営業の自粛」「休業の要請に」ともなって、**自営業者、個人請負のフリーランス、非正規雇用労働者など、弱い立場の人が生活危機に陥っています**。

首相へ一言

誰一人取り残さないでほしい。自粛に対する補償を行うのと同時に、国民健康保険料、医療費の減免を幅広く行ってください。生活保護の柔軟な運用等で、経済的な理由で医療を受けられない状況をなくしてください。

事務職員

2021年5月にはじまった予防接種。私の勤める診療所でも取り組まれました。同時に行われた自治体の集団接種での受付人数があまりにも少なかったため、小さな診療所なのに**想定していた以上の方がワクチン予約に殺到する事態となり、大混乱**に陥りました。予約が取れて接種ができた人は一安心となりましたが、もれた人たちからは「診療所が悪い」とばかりに、批判の声が毎日押し寄せています。

首相へ一言

ワクチン接種体制を整えて速やかに実行すること。ワクチン供給を滞らせないこと。PCR検査を必要に応じて受けられる体制を整えること。

看護助手

ただでさえ、人員ギリギリなのにコロナで感染症の疑いのある職員が自宅待機のため、また人が少なくなる。**二次感染予防のため**とは言え、もう少し余裕のある体制にするべき。決して無駄な人員にはならないはず。まるで何もかも余裕がなくなってしまいます。**ほんと、みんな身も心も削ってがんばっています**。

首相へ一言

医療従事者にもっともっと温かい手をさしのべてください。

介護福祉士

友達が濃厚接触者になって、仕事ができず、**家庭内感染の対応がとっても大変でした**。

首相へ一言

病院をいっぱいつくって、ベッドを増やしてください。働いている人間の給料が上がるように、病院の経営が安定するように予算をあげてください。頑張って働き続けるのでお金をください。

職種記入なし

入院されている患者様が、家族と会いたいと泣かれ、リモートで面会されても納得されず、直接面会すると、帰りたいと泣かれ、リハビリが進まず、活気がなくなる。**自宅退院できず、療養型の病院に泣く泣く転院される**。そんなケースが増えています。

首相へ一言

休業要請するなら、早急に支援金を支払ってください。生活できずに苦しんでいる国民が、あなたの膝下にどれくらいいるかご存知ですか?知ろうとしていますか?

看護師

コロナに感染して、重症化し、いのちはとりとめたものの、脳の障害や神経障害などの後遺症が残り、社会復帰できない方を目の当たりにしました。コロナ感染のため、入院中家族に会えず、さみしい思いをしている高齢者の方もいます。**日々、いつ感染するかと不安な毎日を過ごしています**。

首相へ一言

感染拡大でいろいろと制限されている飲食店の方やそれにかかわる人たちに少しでも多くの援助をしてください。



選挙しよう!
Vol.2
Go vote!
Let's act!

そもそも、出産、育児を女性の 問題として捉えることにも違和感。 —育児休暇取って考えたこと—



川畑 望 (耳原鳳クリニック 事務長)

第1子の出産に立ち会い、その後の育児に関わったことで、僕は育児当事者になった。乳頭痛で授乳ができなくなったパートナーの脇でオロオロし、わらにもすがる思いで乳頭カバーを買いに走った時の絶望感。

それから4年後、僕は育児休暇を取得した。取る前は、収入が減る事や、職場に負荷をかけるのではと、とても悩んだ。保育制度や親の支援も検討したけれど、どうしようもなく取得した。

出産、育児の当事者である女性が出産後も働き続けることが困難な社会はおかしい。ある調査では、第1子出産後も就業を継続した女性の2割は第2子出産に際して退職しているという。その上、子どもを産み終えた無職の妻のうち86%は就業を希望し、最大の理由は経済的理由であると分析されている。(国立社会保障・人口問題研究所「2015年 社会保障人口問題基本調査」)

そもそも、出産、育児を女性の問題として捉えることにも違和感。政治家の「産まないことが問題」発言を女性蔑視発言だと報道したメディアに対してもなんか違うと思ってしまう。育児をする男性を、いや女性であっても、持ち上げる風潮に、生きづらさを感じる人もいる。子どもを産んでいない女性の価値を低く見る行為が人を傷つける。

希望出生率1.8を強調する少子化対策は、人口減少による経済力の低下しか見ていないようで、当事者への視点が抜け落ちている。家族を定義し直す憲法改正を目論む憲法草案を発表するような政党には任せられない。

社会をよくしようなんておこがましいと感じることもあるけれど、社会に働きかけることも役割なのかもしれない。誰もが尊重される社会にするために、当事者が一票を入れる。真剣に生きるため投票に行こう。

「我慢し自己責任と言わせる社会の ままでいいのか?」と私は毎日が 「問い」だらけだ。



津田 愛 (淀川勤労者厚生協会 ケアプランセンターあい 介護福祉士・介護支援専門員)

私には中学生の子どもが2人いる。生活リズムも大人のように忙しい。学校、部活、塾の日々で帰宅は22時。あれ!?大人より大変じゃない?と。その反面、お金を支払わないと利用できないグラウンド。ボール遊びも、花火もできない公園など、子どもらしく過ごせる場を大人の都合で奪い続けている。

共働きでも贅沢できない現実。業務スーパーなどの激安商品に喜び、100円均一商品やユニクロなどで満足させようとする生活。あれ!?私の夢は?子どもたちの未来は?と、**なんの為に私は働き、働き続けた先に何が
あるの??**と嘆く気持ちでいっぱいだ。

介護業界に約20年以上勤めている。年々改悪される介護報酬。全く人気も出ない職種な上に、増え続ける高齢者。そして核家族化・老々介護・少子化と課題だらけで現場はますます何役もこなす逼迫している。

介護はフォーマルサービスだけでは追いついていない。私たち専門職は当事者や家族・地域を巻き込み社会へ投げかけ行動し続けているのか?政策を待つだけでは変わらない。**私たちが批判だけでなく提言し続けアクションを起こし、作りだすしかもう変えられないとさえ感じている。「今の制度では…」**と言いつけたくない。

政策が生活や仕事に影響を及ぼすのだから、高い税金を納め損にはさせてはいけない。

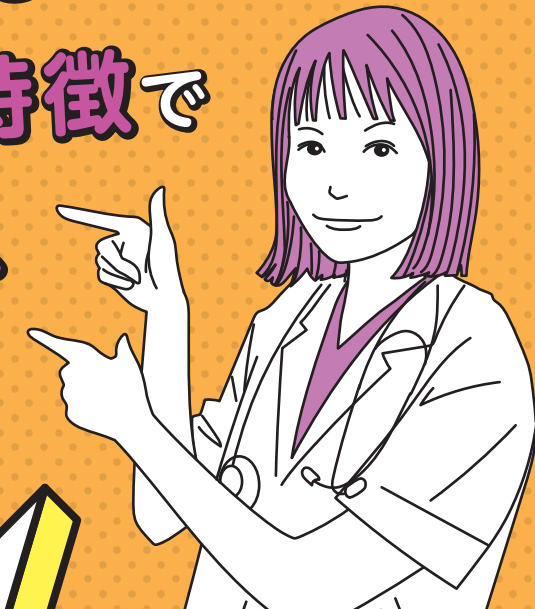
私たちだけでなく、子ども達の未来も明るくさせる責任の1票を簡単に捨ててはいけない。

この文章を書いた夜、木村拓哉が政界に入り、若者が一気に政治に関心を示す夢をみた。**ある意味ぶっ飛んだ戦略が若者を引き付け、開拓のスピードを上げられるかもしれない(笑)**

選挙しよう!
Vol.2
Go vote!
Let's act!

私がこどもに渡したい未来は、

その人が持つ個性や特徴で 区別されることなく、 その人がその人らしく 生きられる社会



共働き家庭で育った私は、自分も手に職をつけ、働くものだと思って疑いませんでした。毎日の仕事は大変ですが、**誰かの役に立っていると思える、仕事のやりがい**は感じています。

それにしても、子育てをしながら働くことがこんなに大変だとは思っていませんでした。働き続けようとこどもの保育園を申し込むだけでも、**もしかしたら落ちるかもしれないと心配**になる。これは、私たち保護者が保活(注1)で点数を貯めてない(注2)せいではなくて、**社会資源としての必要な保育の絶対数が足りない**だけです。**保育だけでなく、教育、医療・介護も、公的支援は拡充されるべき**です。

特に医療に関しては、このコロナ禍で、これまでのカツカツの医療体制ではこのような事態に対応できないことは明らかになりました。政府の矛盾したコロナ対策は、**緊急事態宣言を出しつつオリンピック・パラリンピックを強行**しました。結果的に、市民の**感染予防行動推進につながらず、第5波の感染爆発を生んだ**ことも明らかです。コロナ対策に関しては、**市中の感染制御を第一に早急に舵を切り、同時に平常時の医療体制も充足していくことが必要**だと思います。また、**社会にとって絶対に必要な医療などの場面で働くエッセンシャルワーカーの、給与を含めた労働条件の改善と、人員育成・確保による個々の労働時間の短縮は急務**です。

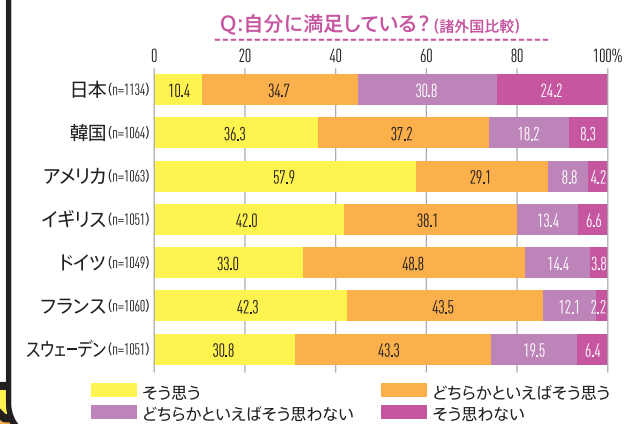
私がこどもに渡したい未来は、**その人が持つ個性や特徴で区別されることなく、その人がその人らしく生きられる社会**。結婚しても名字を変えなくてもいい、女性らしく、男性らしく振舞わなくてもいい。それぞれの人がその人らしく、誰かに虐げられることなく、**自分の能力を伸ばせる教育を受け、得意なことを生かして誰かの役に立てれば**いいと思います。これは、憲法で定められている基本的人権に直結することです。

さあ、私たちの未来へつなげよう。選挙にいこう。 **中村まなびさん**
(西淀病院 医師)



※注1 保育園に入るために保護者が行う活動
※注2 多くの自治体では、保護者の保育に欠ける(保護者が保育できない)理由を点数化し、点数が高い順に入園できる

日本の若者の自己肯定感他OECD諸国に比べて低い



社会への主体的なかかわり

